



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

新型コロナウイルスワクチン接種 薬剤師会の活動と医療連携について

[当法人評議員]

西多摩薬剤師会

田中 三広 [薬剤師]

新型コロナウイルス感染症は、その発生から多くの患者さんが生じ、健康を損なうとともに、医療提供体制に大きな負担を及ぼしています。また、国民全体が感染防止対策の徹底を求められるなど、生活に大きな影響を与えています。こうした中で、新型コロナウイルス感染症の感染収束に向けては、ワクチンの効果に期待が高まり、現在、急ピッチで接種が進んでいます。今回はワクチン接種の協力要請のあった青梅市薬剤師会の活動を中心に紹介させていただきます。

今年3月に西多摩保健所にて西多摩インフルエンザ等地域医療体制ブロック協議会が開催され、そこで各市町村の新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業の計画内容や準備状況が報告されました。4月に入ると青梅市より青梅市薬剤師会に対し正式にワクチン接種事業とサテライト接種施設へのワクチン等の分配作業の協力要請がありました。薬剤師会としての課題は、①青梅市薬剤師会会員は注射調製の実務経験がほとんどないこと、②ワクチン接種の調製を青梅市薬剤師会会員63名だけで実施することは難しいということでした。①については、近隣の病院薬剤部にワクチン調製実習の協力を要請いたしました。青梅市立統合病院と高木病院に快くお引き受けいただき、5日間の実習を計画実施できました。②については、西多摩全域の薬剤師に協力要請を行い、108名の協力者を得ることができました。

青梅市では新型コロナウイルスワクチン接種を円滑に実施するために集団接種訓練を市総合体育館で行いました。対象者の受け付けから退場までを想定した一連の流れを確認する訓練でしたが、そこではワクチン調製未経験者の実習も同時に行いました。この訓練で見つかった課題はワクチン調製のスピードアップを図ることでした。そこで注射調製に必要な資材を揃えたキットを接種協力者の薬局に届け、薬局内で訓練していただきました。

実際の接種は5月2日より65歳以上の高齢者から開始されました。開始当初はワクチン接種人数を予定の半数から実施し、ワクチン調製キットによる訓練の成果により予定数まで対応することができました。菅義偉首相の「7月末までに高齢者接種を完了させる」という発言で、青梅市がワクチン接種の人数を急遽増やすことになり、その都度薬剤師の人員確保に尽力しました。

医療従事者優先接種についてはその対象者となる薬剤師は、東京都薬剤師会の名簿に2月中に登録を完了していたため、新規採用のワクチン未接種者につきましては、西多摩三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)主導で市町村ごとに調整し、6月中旬に接種が完了しました。

今回のコロナ禍では、行政や関係機関と日頃から連携を図り顔の見える関係を作り、地域情報の共有や相談しやすい関係作りを行ってきたことで、新型コロナウイルスワクチン接種事業を推進することができたと考えます。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病患者と心血管疾患について誤っているのはどれか、1つ選べ。(答えは3ページにあります)

1. 心血管イベントの発症率は非糖尿病患者の1.5倍程度となる
2. 冠動脈病変は複数枝かつ複数箇所に出現するが多い
3. 心筋虚血があっても20～50%は胸痛を訴えない(無痛性心筋虚血)
4. 一部のSGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬は、心血管複合エンドポイントを低減させる
5. 潜在的な心筋障害も伴いやすく、心不全を合併しやすい



報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第20回研修会

日時: 令和3年6月1日(火)
オンライン

[当法人評議員] 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

2021年6月1日(火)19:20からWeb(Zoom)にて開催しましたので報告いたします。メインテーマは「血糖曲線から生活療養・薬物療法を探る～患者教育と多職種連携のあり方～」として盛大に開催されました。

第1演題として「SAP,CGM,FGM のデータと食事分析から行う管理栄養士のアプローチ」を加藤内科クリニックの管理栄養士 加藤 則子先生にご講演いただきました。フリースタイルリブレが与えてくれるデータと食事内容を分析して血糖コントロールを考えることの大切さを発表されました。薬剤師や他のコメディカルにも大変興味深い内容でありました。食事だけで判断するよりもフリースタイルリブレのデータを重ね合わせることで高血糖だけではなく、低血糖を防ぐことが見えてくる可能性があります。

第2演題として「ソモジーかあかつきか? ～リブレを使つての調整のゆくえは・・・」を多摩センタークリニックみらい 看護師 山本 香先生にご講演いただきました。晝現象なのかソモジー現象なのかフリースタイルリブレはわかりやすくなります。夜中の低血糖の確認は自覚症状がない場合も多く、確認することが困難な場合が存在します。24時間グルコース値をモニタリングできるためどちらが影響しているかがわかってきます。インスリン注射の投与量の調節などに役立てていくことができます。フリースタイルリブレのデータの見方も共有できてとても分かりやすい講演でした。

第21回研修会も計画しています。ぜひ多くの先生に参加していただきたいと考えております。そしてCSIIやFGM、SAPなどを多くの施設で利用してもらえると、患者に対して治療の選択肢を増やすことができると思います。これからもわかりやすい役に立つ研修会を心掛けていきます。皆様のご参加をお待ちしております。



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第69回例会

日時: 令和3年6月10日(木)
オンライン

[当法人会員] 日本医科大学多摩永山病院 小谷 英太郎 [医師]

2021年6月10日(木)、第69回例会が開催されました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延の影響により、第68回例会に引き続きZoomを用いたオンライン開催とし、「コロナ時代に臨む医療連携と療養指導の新形式」というテーマを掲げました。私は、当番幹事として総合司会を務めさせていただきました。

基調講演では、東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝内科の櫻田 麻耶先生に「コロナ共存下の糖尿病診療」についてお話いただきました。多摩総合医療センターは、都立の医療機関として、軽症から重症まで約800例という大変多くのCOVID-19症例の診療実績があります。COVID-19に対する治療、およびCOVID-19患者における糖尿病治療について詳細にお話いただき、その中から、糖尿病がCOVID-19の発症リスクを上げることではないが重症化のリスクにはなり得ること、いち早く再開した対面患者指導のノウハウ、そして、感染防御を実施しつつ、いつも通りの診療を続けていくことの重要性をご教示いただきました。

パネルディスカッションでは、八王子糖尿病内科クリニック院長の山本 直之先生の司会の下、川越 宣明先生(医師)、天川 淑宏先生(理学療法士)、濱谷 陽子先生(看護師)、および寺田 武司先生(薬剤師)の4名のエキスパートの先生方から、それぞれの職種の立場からコロナ禍で工夫をしながら実践している診療、医療連携、療養指導の実際についてお話いただきました。閉会に際し、本法人業務執行理事の植木彬夫先生にそれぞれの発表の要点をおまとめいただき、明日からの診療に役立つ情報の整理ができたものと思われまふ。

本例会は、最終的に100名のオンライン参加をいただき無事終了することができました。我々医療従事者も社会全体もコロナ時代に順応してきているように感じます。ご聴講いただきました皆様、誠にありがとうございました。





第64回日本糖尿病学会年次学術集会

令和3年5月20日(木)～22日(土)

Web開催

〔当法人会員〕

武蔵野赤十字病院

志賀 和美〔看護師〕

事前登録して参加した2つの企画の報告をします。一つは「リス☆カン」です。「リス☆カン」とは、3～4人でグループになり、提示された糖尿病症例に対して、患者役、指導士役、観察者役に分かれて、療養指導のロールプレイを行うものです。グループは、看護師、薬剤師、栄養士等、多職種で構成され、普段は見ることのできない、他者、他職種の指導を観察することができること、指導士役は意見をもらうことで自分の良いところ、指導のくせ等に気が付くことができます。以前にも参加経験がありましたが、オンライン開催ということで、北海道や大阪、京都など遠方の方とグループになり、地域による指導の違いを体験し、とても楽しいロールプレイになりました。

もう一つは、日本医療学会合同企画シンポジウムです。こちらも、数人のグループになり、発表された症例に対して、意見交換するというものです。中でも印象に残ったのは、東日本大震災に被災された女性の糖尿病患者さんの症例です。震災でお孫さんを亡くされてから治療意欲を失っていたが、あるきっかけで、自分は生かされているのだと感ずることができ、糖尿病も改善に向かったという症例でした。関わった看護師の「何かもってできることがあったのではないか」との語りについて、グループでディスカッションしました。私のグループは、ファシリテータの医師以外の2名は臨床心理士さんでした。患者さんが変化したのはどのような対応があったからか、自分ならどうするかなど話し合い、心の変化がこんなにも身体に影響するのだということを改めて考えました。不安だった、Zoomでの対話も遠隔とは思えないくらい自然に行えました。

オンライン開催は、自宅で温かいコーヒー片手に参加できる手軽さと、参加の合間に家事ができるなど、主婦にとってはうれしい限りです。しかし他の先生方も言われているように、一緒に参加した人々と現地の文化に触れたり、美味しいものを食べるなどの交流ができないのは寂しい限りです。状況に応じて参加方法が選択できるようになると良いと願います。

第64回日本糖尿病学会年次学術集会が5月20日～22日に完全Webで開催されました。COVID-19の影響で昨年同様に今年もWeb開催でしたが、発表当日のシンポジウムや口演ではチャット機能での質問によるディスカッションもあり、非常に充実した内容となりました。また、後日にオンデマンド配信もあり、見逃した発表も自分のペースで視聴することが可能でした。

〔当法人会員〕

豊島病院

増田 浩了〔理学療法士〕

私自身が特に興味深かった内容を3つ挙げさせていただきます。1つ目は、「シンポジウム18 運動療法における臓器間ネットワークの役割と臨床への展開」で、運動療法について最新の研究の知見から臨床現場での取り組みなどが講演されていたことです。中でも、レギンス型の身体活動量計や、運動療法の実施状況・効果を測定するための血液データの研究は、臨床現場で活用出来ると感じており実用化が待ち遠しいです。

2つ目は、「シンポジウム15 多様化する糖尿病への医療の個別化を目指して」で、運動療法についても個別化の在り方が述べられていたことです。例えば、運動療法が実施できない理由に、勤労世代では「仕事・子育てで時間がない」が多いのに対して、高齢者世代では「身体の痛み」が多いです。そのため、世代別はもちろんですが個人により運動療法が実施できない理由は様々であり、それを考慮した対応が重要だと感じました。

3つ目は、COVID-19関連の発表です。COVID-19禍での新しい生活様式は、身体活動量や身体機能などに悪影響を及ぼすことが報告されています。今回の学会では、新しい生活様式での運動療法の工夫・対応策の発表も散見されました。まだまだ、COVID-19収束の見通しは立っておらず、引き続き対応策の検討が必要だと思いました。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 1 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 糖尿病の慢性合併症の一つである大血管症(動脈硬化性疾患)は、糖尿病患者の主要な死亡原因であり、特に虚血性心疾患や脳血管障害の比重が大きい。危険因子は糖尿病だけでなく、脂質異常症、高血圧、肥満、喫煙などがあるが、重複して存在することが多く、その基礎にはインスリン抵抗性が関与している。糖尿病患者の非糖尿病患者に対する脳血管障害と虚血性心疾患の発症率は、久山町研究ではいずれも約3倍、JDACSではそれぞれ約4倍と約5倍と報告されている。女性の発症率が男性と近似することも特徴である。

1. × 日本人の糖尿病患者での心血管イベント発症率は非糖尿病患者の3～5倍程度となる。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

☒ 第22回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

☒ 申込必要

日程： 9月 ⇒ 10日(金) 16日(木) 28日(火)
 10月 ⇒ 4日(月) 12日(火) 18日(月) 26日(火)
 11月 ⇒ 5日(金) 12日(金) 16日(火) 25日(木)
 12月 ⇒ 1日(水) 6日(月) 14日(火)
 予備日 ⇒ 12月22日(水) ※休講等、不測の事態に備えた補講日

時間：19:00～20:30 (開場18:40)

オン
ライン

参加方法：Zoomにて開催いたします

※視聴確認をしたい場合はこちら⇒<https://zoom.us/test> (Zoomミーティングテストページ)

受講料：12,000円 (全14回講義分として) ※会員価格となります

定員：250名 (定員に達し次第締め切ります)

テキスト：「糖尿病療養指導ガイドブック 2021」

(日本糖尿病療養指導士認定機構発行 ㈱メディカルレビュー社発売 税込3,300円)

申込：当法人ホームページ <https://www.cad-net.jp/> より

申込方法の詳細は、以下のページにてご案内いたします

トップページ > 「重要なお知らせ」 > 「第22回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」

西東京糖尿病療養指導士・認定試験実施日：2022年2月13日(日) 予定

☒ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第70回例会

☒ 申込必要

テーマ：『糖尿病在宅支援の新しいかたち～糖尿病在宅患者の療養・介護支援ガイドの活用法』

開催日：2021年9月13日(月) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (9/13締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日糖協療養指導医取得のための講習会

参加費
無料

オン
ライン

☒ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第21回研修会

☒ 申込必要

テーマ：『本邦発パッチポンプのゆくえ～デバイスの現状とバージョンアップしたCGMデバイス』

開催日：2021年10月19日(火) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (10/19締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



第64回日本糖尿病学会年次学術集会在開催され、今年もWeb配信されました。今回、一部の内容ではありますが、9月22日まで配信が延長となりましたね。Web配信はある程度の期間を設けて頂いているのですが、聞きたいセッションをいくつでも聞くことができるため、つい欲張ってしまい、あれもこれもと思っていると案外時間がなく…。結構長期間の延長、ひそかに嬉しく思っています。(広報委員 永田 美和)